

# クラウドコンピューティングを見据えた 情報システム部門のあり方

- 雲に踊らされるか、雲を操るか  
~ 情報システム部門のあるべき姿 ~ -

## アブストラクト

### 1. 背景

近年、私たちを取り巻く市場や経営環境は急速に変化しており、情報システムに対する要求も高度化している。一方、クラウドコンピューティング（以下、クラウド）の出現により、所有から利用へという新しい形態が注目されている。情報システム部門は、変化に対応するために、クラウドのメリットの最大化や新たなリスクへの対応、最適なサービスを目利きする力が必要になる。

本分科会では、クラウドを大きな変革のチャンスと捉え、情報システム部門が担うべき使命を達成するために以下を目的とし、研究活動を開始した。

- (1) 情報システム部門の現状とクラウドの影響を踏まえたあるべき姿を明確にする
- (2) あるべき姿の実現に向けたアクションプランを策定する
- (3) クラウド導入にあたって、情報システム部門が取り組むべき課題と対策を明確化する

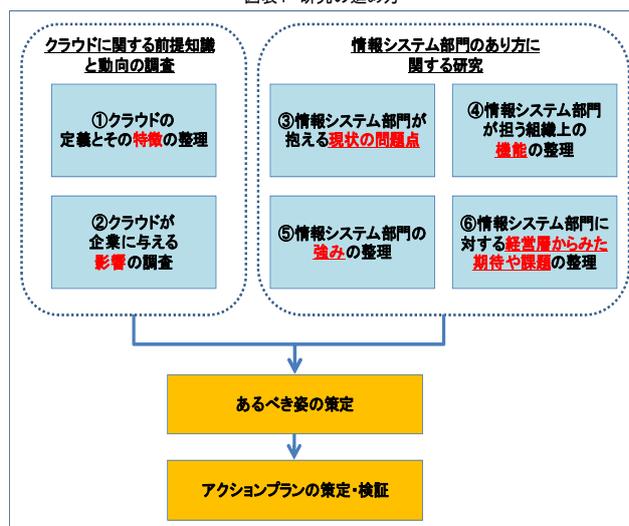
### 2. クラウドと部門のあり方に関する調査・研究

そもそも企業は情報システム部門にどのような役割や機能を期待しているのか。「クラウドがもたらすもの」を踏まえながら、情報システム部門のあるべき姿を模索した。（図表1）

#### クラウドの特徴とその影響（ ）

クラウドの登場が情報システム部門にどのような影響があるか先進的な導入事例を元に調査した。その結果、コスト・開発期間・新規ビジネス創出チャンスなどのプラス面、独自性が薄れる、IT統制がきかないなどのマイナス面の影響があり、これを踏まえ、「落とし穴」に気をつけながら上手く利用することが肝要であると結論づけた。

図表1 研究の進め方

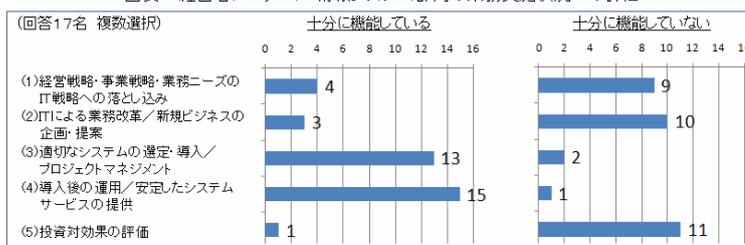


#### 情報システム部門のあり方に関する研究（ ）

メンバー企業で、部門が抱える問題点、現状の機能、強み、経営層の期待について調査・分析した。

問題点として147件を洗い出し、クラウドとの関連性を分析した結果、現在抱えている問題点の全てがクラウドによって解消されるわけではないが、とりわけ「IT資源調達」「ITサービス活用」フェーズでは、一定の効果が期待できることが読み取れた。情報システム部門の機能については、現時点ではシステム導入と

図表2 経営者アンケート：情報システム部門の業務実施状況への評価



安定稼働のための機能が中心であり、安定稼働以上の付加価値を創出できていないことが分かった。強みとしては、業務改革／提案力、マネジメント能力、データ管理能力、技術知識などがあるが、現状の業務の中では十分に発揮できていないことが明らかになった。経営層へのアンケート調査では、「調達～

導入」業務の評価が高かった反面、「戦略、企画・提案、投資対効果の評価」での評価が低く、いわゆる上流工程と投資評価に不満があることが分かり（図表2）この傾向は調査結果と一致する。

以上より、これからの情報システム部門は、企画・提案業務などにパワーシフトする必要があると再確認できた。

### 3. あるべき姿

ここまでの調査・分析において、クラウドを見据えた情報システム部門のあり方を考えるための材料が揃った。これらの材料から議論を重ね、情報システム部門のあるべき姿における役割を導き出した。（図表3）

そして、あるべき姿を「顧客・経営者・利用者それぞれの視点で、クラウドを含めた最適な選択肢を目利き・利活用し、新しい付加価値を創造する姿」と定義した。【目的(1)の達成】

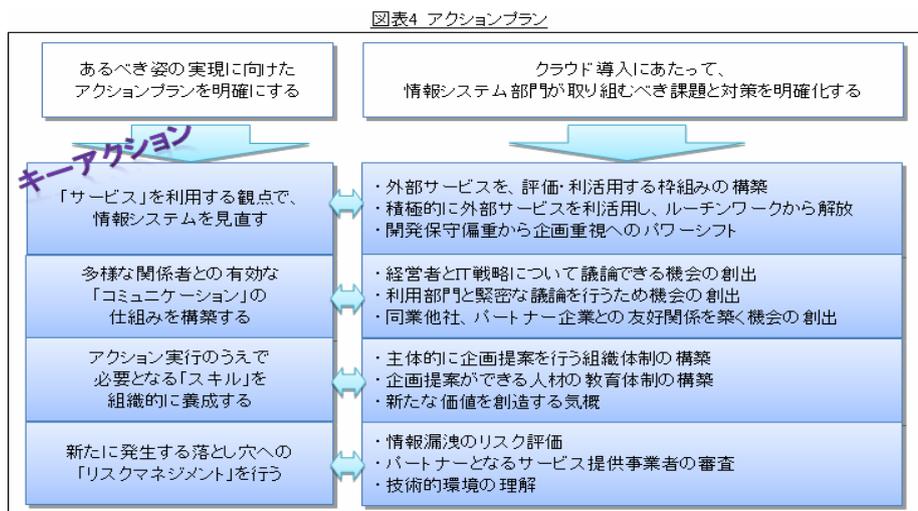
### 4. アクションプラン

あるべき姿実現のための具体的なアクションプランについて、以下の手順で策定した。

図表3の役割を、情報収集、企画・提案など、ポイントとなる要素にブレークダウン要素毎に「初期」「反復実施」「定義された」「管理された」「最適化した」の5段階の状態を定義「管理された状態」以上になるための具体的なアクションをリスト化（事例収集/メンバー発案）リストには、アクションの結果によって得られる成果物や必要なスキルセットを盛り込んだ

策定したアクションプランを総括すると、「サービス利用の観点」、「コミュニケーション」、「スキルの養成」、「新たなリスクのマネジメント」の4つの「キーアクション」に集約することができた。【目的(2)の達成】

また、これらのキーアクションごとに、特にクラウドを見据え取り組むべき課題と対策を明確化した。【目的(3)の達成】



策定したアクションプランを汎用的に活用できるように、「あるべき姿 アセスメントくん」としてツール化した。このツールを使うと、現時点における部門の状態を客観的に診断した上で、その結果に応じて起こすべきアクションの事例を参照することができる。

なお、策定したアクションプランの信憑性については、以下の検証により、その有効性を確認した。

- (1)部門が抱える問題（147件）に対するアクション適用による机上検証：131件（89%）が解決可能
- (2)アクションプランのLS研外企業への有効性ヒアリング：13社中9社が「有効」と回答

### 5. 提言

情報システム部門は、これまで培ってきた強みを活かしつつ、より高付加価値を生む組織へ変化する必要がある、そこに寄せられる期待は大きい。クラウドという大きなパラダイムシフトが到来している今こそチャンスである。新しい付加価値を創造する情報システム部門を目指して、進化を遂げようではないか。

活用ツール「あるべき姿 アセスメントくん」を片手に、クラウドを操って、アクションを起こそう！